



路材協会報

路面標示材協会

東京都千代田区神田佐久間町2-13 (深津ビル)

〒101-0025 Tel(03)3861-3656

Fax(03)3861-3605

目次

| | | |
|----------------------|----------|----|
| 新年度の活動に向けて | 会長 石川 雅和 | 1 |
| 平成 18 年度役員一覧 | 事務局 | 3 |
| 平成 18 年度運営計画 | 事務局 | 4 |
| 横断歩道のすべり抵抗性向上のための一試験 | 技術委員会 | 6 |
| 事務局便り・余滴 | 事務局 | 16 |



新年度の活動に向けて

会長 石川 雅和

平素は、協会員並びに関係各位のご指導、ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この4月からは、新しい平成18年度の活動に入っておりますのを機会に、当業界に関連のある諸般の環境について、以下に、一言述べてみたいと思います。世間では景気が確実に回復していると言われる中、公共事業を取り巻く市況は、現在かってない厳しい状況となっています。また、業界を取巻く別の大きな問題として、世界的な原油・ナフサ価格の高騰があります。代表的な原油価格の指標である米国産ウエスト・テキサス・インターメディアート(WTI)価格が、5月に入って1バレル=70ドルの大打に受けて1990年の湾岸危機当時を遥かに上回り、史上最高値圏で推移しています。WTI価格は、

国際紛争などに特に敏感で、イラクなど中東情勢のリスクが価格に上乘せられているとみられますが、WTI 価格の高騰につられる形で中東産など他の原油価格指標もジリジリと値を上げているのが現状です。

今回の原油価格の高騰は、過去の石油危機とは一律に論じられない大きな違いがあると言われています。70年代の石油危機は、第一次危機は中東戦争、第二次危機はイラン革命と、いずれも石油の大産地である中東地域の政治経済の混乱という、供給側の一時的な要因で発生しました。それに対し今回の原油価格の高騰は、世界経済の堅調な成長ともなう石油消費量の増大という、需要側の構造的な要因で生じたものだとする違いが指摘されています。

また一方では13億人の人口を擁する中国と、11億人のインドの両人口大国が、いよいよ本格的な経済発展を開始してきたため、世界の石油需要は今後一段と拡大していくものと考えられています。

今回の上昇局面では、投機的な資金が市場に流入したことで原油価格が押し上げられている側面もあるとの解説もありますが、背景には上記のような新興大国の台頭という明確な需要増の要因が存在しているため、制約要因が払拭された後には原油価格が下落に転じた70年代の石油危機と異なり、上がり過ぎた分の調整はあるとしても、原油価格は中長期的に高止まる可能性が高いといわれ、中期的に見ても相当の厳しさが予測される状況にあるといえます。

このようにみれば、我々にとっては、需要（路面標示の工事量）の減少に加えて、塗料が原油関連に密着しているため、その原材料の値上げによる利益圧迫など、当協会を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。

平成19年度にはハートビル法と交通バリアフリー法を一本化したより総合的なバリアフリー新法が施行されようとしており、誰もが「安全・安心」で住みよいユニバーサルデザインによる街づくり、観光振興と地域活性化を一体とした面的なバリアフリー整備等への取り組みが各地で始まろうとしています。新法施行までに、協会として施策に対応できる仕組みづくりが必要ではないかと考えます。

また、地球の環境破壊が深刻化する中、当協会としては環境への負荷を低減した製品の供給が責務であると考えております。グリーン購入法は今後ますます公共事業において重要視されると思われ、低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料や、発注者のご理解も徐々に広がっております路面標示用塗料の黄色に使用されている黄鉛顔料の無鉛化を図った環境対策型路面標示用塗料の一層の品質向上と、発注者への更なる仕様化提案活動を行うことなどで、社会貢献に寄与して参りたいと存じます。そうした良質な仕事を続けることが、我々の存在価値になると考え、協会員並びに関係各位のご指導ご鞭撻を賜り、この難局を突破していきたいと存じますので、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(株式会社キクテック 取締役事業統括部長)

平成18年度 役員一覧（路面標示材協会）

| | | |
|-------|---------|---------------|
| 会 長 | 石 川 雅 和 | (株)キクテック |
| 副 会 長 | 中 島 浩 治 | (信号機材(株)) |
| 専務理事 | 種 田 明 政 | (路面標示材協会) |
| 理 事 | 増 田 眞 一 | (アトムクス(株)) |
| | 堀 憲 夫 | (大崎工業(株)) |
| | 高 村 英 二 | (神東塗料(株)) |
| | 今 津 隆 二 | (積水樹脂(株)) |
| | 平 本 光 雄 | (大洋塗料(株)) |
| | 廣 田 稔 男 | (株)トウペ |
| | 石 塚 昇 | (日本ライナー(株)) |
| | 倉 持 実 | (日立化成工材(株)) |
| | 小 西 陽 | (富国合成塗料(株)) |
| | 藤 木 秀之輔 | (藤木産業(株)) |
| | 井 上 幸 久 | (レーンマーク工業(株)) |
| 監 事 | 齋 藤 明 | (信号器材(株)) |
| | 川 合 多 | (神東塗料(株)) |

委員会関係

| | | |
|-------|---------|------------|
| 業務委員長 | 落 合 鉄 也 | (株)キクテック |
| 副委員長 | 渡 辺 涉 | (アトムクス(株)) |
| 技術委員長 | 高 木 嗣 朗 | (信号器材(株)) |
| 副委員長 | 梶 原 秀 太 | (大崎工業(株)) |

平成18年度 運営計画

1. 経営環境の見通しと運営の基本

わが国の今年度の経済成長見通しは、堅調な米・中経済を反映して輸出の好調が見込まれることなどから、約2%強のプラス成長（民間調査機関）と予測されている。

しかしながら、昨年来の原油価格の高騰は、原材料への影響ばかりでなく日本の経済活動に対する重要な懸念材料で、今後も原油高が続くことが予測され、大変厳しい状況下にある。

一方、私共の関連する公共事業の業況見通しは、18年度公共事業関連予算は公共投資の重点化・効率化を目標に道路整備・道路環境整備で前年アップの概算要求がなされている。警察庁の18年度要求予算も前年比アップとなっている。

他方、多くの地方自治体は、交付金の減額（総務省の地方財政計画方針）や税収の減少化傾向のなかで、地方財政は依然として厳しい状況下にあります。

また、平成17年の道路交通事故は、関連諸官庁の努力に加え、法改正による効果などから死者数6,871人（前年比-487人）と減少した。しかし、他方では、事故発生件数、負傷者数とも増加に転じており、特に高齢者の事故の増加は、歩行・白転車の死者の75%以上が65才以上（交通事故死者数全体の17%）が占めている。

この道路交通事故による経済的・社会的損失は大変大きく、多角的改善が望まれる。また、これからの社会環境に合わせ「高齢化社会」「環境保全」をより重視した効果的な交通安全対策、安全施設の一層の充実化が望まれる。

私どもは、交通環境への安全・安心を目指し費用対効果が高いと言われている「いつも、良く見える路面標示（路面標示ワイド化、高視認性化など）」を必要なところに設置することを目指す。併せて、社会的ニーズに応えるべく環境対策型路面標示用塗料（無鉛、水性）の一層の品質向上を図ると共に、交通安全に貢献する。

運営基本活動テーマは

- 1) 路面標示（道路標示及び区画線）設置の充実化を目指し、変革の時代に即した路面標示材の品質・技術の向上と需要の開拓。
- 2) 環境対策型路面標示用塗料の啓蒙活動。
- 3) 会員相互の技術力向上発展。

2. 総務的事項

- 1) 理事会ほか会議体は効率的に行い、併せて活性化に努める。
- 2) 経費の節減に努めると共に費用の効果的使用をはかる。
- 3) その他。

3. 調査、統計業務

- 1) 路面標示用塗料の生産・出荷統計の実施。
- 2) 路面標示（塗料）の需要調査の実施。
- 3) その他。

4. 広報業務

- 1) 路材協会報は、年3回発行。
- 2) 環境対策型路面標示用塗料（無鉛、水性）の啓蒙・普及活動。
- 3) 関連団体との連携及び情報交換。
- 4) 路材協のホームページ作成活動。
- 5) その他。

5. 技術業務

- 1) 社会ニーズに合わせ、環境対策型路面標示用塗料の品質・技術の向上。
- 2) 路面標示の耐久性についての調査・研究。
- 3) JIS K 5665 改正への参画。
- 4) 関連機関への参画並びに協力、及び、技術調査等の実施
- 5) 外部団体との技術会議等の開催。
- 6) その他。

6. 研修業務

- 1) 関連業界技術陣との研究、会合等への参加。
- 2) 関係方面からの技術講師の要請には、可能な範囲で対応。
- 3) 関連業種の知見向上へ、見学会等の実施。

7. その他

官公庁関係部署ほか関連の機関や団体などとの接触に努め、路面標示関係のニーズや動向に関する情報交換、並びに、その推進。

横断歩道のすべり抵抗性向上のための一試験 (第1報)

路面標示材協会 技術委員会

はじめに

路面標示用塗料3種溶融用は、主に一般道路の標示に使用され、車両通行の円滑な誘導及び交通安全に寄与している。しかし、この交通安全の担い手である路面標示のすべり抵抗値が舗装路面より低いので、近時、横断歩道において、車両や歩行者がすべり易いのではないかと懸念する意見が少なからず聞こえるようになってきている。

実際に、すべり抵抗の測定結果も当協会発行の技術図書「路面標示材料」によるとアスファルト舗装路面の(密粒)が40～70BPN、(開粒)60～75BPNであるのに対し、路面標示の溶融用塗料は40～50BPNという値に止まっている。

そこで、技術委員会としては、路面標示のすべり抵抗性が少しでも向上すればとの考えから、塗料中の体質材と施工時の散布材に硬質骨材を使用して試験施工を行い、初期から経過12ヶ月にわたるすべり抵抗性について従来(現在使用中)の溶融塗料と比較しながら、調査を行う事とした。試験施工に際しては、路面標示の重要な機能である反射輝度(夜間の視認性に影響大)も十分確保することを前提とし、すべり抵抗と共に測定項目とした。試験施工について

〔目的〕

路面標示上におけるすべり抵抗性の向上。但し、反射輝度の確保を前提とする。

〔施工工種〕

横断歩道及び停止線

〔施工日及び測定期間、測定日〕

追跡調査は初期、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、9ヶ月、12ヶ月の1年間とし、下記の日程にて測定を実施した。

| 施工日 | 測定日 | | | | | |
|-----------|------|------|------|-------|----------|----------|
| | 初期 | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 9ヶ月 | 12ヶ月 |
| H16年6月23日 | 6/23 | 7/27 | 9/29 | 12/13 | H17.4/27 | H17.6/28 |

〔改良点〕

○塗料中に硬質骨材(セラミックまたは珪砂)を含有させる。

○散布材はガラスビーズとセラミックを混合して使用。

〔試験材料〕

試験材料塗料は、JIS K 5665の3種(溶融用)1号[通常のガラスビーズ(JIS R 3301 1号)15%含有]の夏配合とし、下記の4種類(試験品3種類と従来品)とする。

A:セラミック15%含有(白色)

B:セラミック30%含有(白色)

C:珪砂30%含有(茶系色)

D:従来品(比較用)……現場で使用中的のもの

※散布材(施工前の実測値;ガラスビーズ量25～30g/15cm幅×1mを想定した)

A、B、Cには、セラミックとガラスビーズを1:1に混合して散布。

散布量：約150g / 45cm幅×1m

Dには、ガラスビーズのみを散布する。

散布量：約85g / 45cm幅×1m

※骨材粒径……塗料に含有用の骨材は、粒径1mm～0.5mm、施工散布用の骨材は、粒径0.5mm～0.1mmを使用する。

〔施工図〕



施工前全景写真

センター

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| B | C | A | D | C | B | A |
| D | D | D | D | D | D | D |
| A | B | C | D | B | A | C |

横断歩道の1本を3等分し、ABCに偏りが無いように組み合わせる。中央部分はD（従来品）とする。

停止線はD（従来品：測定対象外）



施工状況



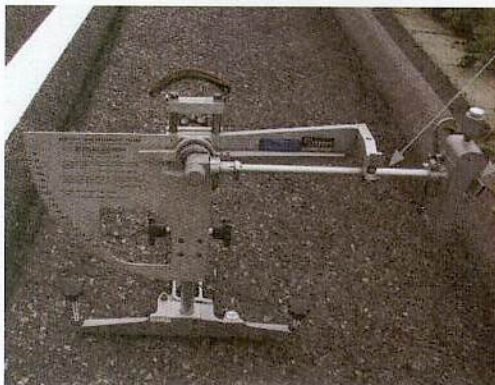
施工直後状況

測定項目

(1) すべり抵抗性 (ポータブルスキッドレジスタンステスター)

振り子式のアームの下部にゴムの滑り片を取り付け、振り下ろして路面を摩擦し、振り上がった時のエネルギーの差を角度から求める。測定は、湿潤状態で実施する。

単位：BPN 初期目標値；65BPN

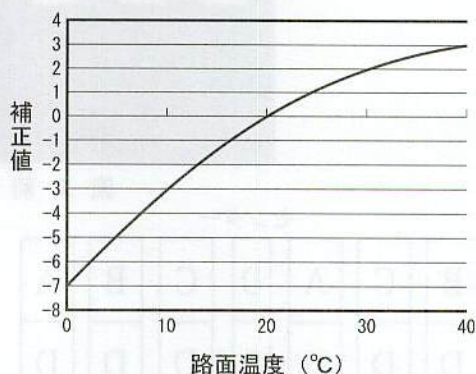


振り子アーム

ゴムスライダー

※ゴムスライダーを接地させて標準合わせ(専用定規を用いて一定の接地長にする)を行い、湿潤面に振り子をリリースして目盛りを読む。

20℃補正グラフ

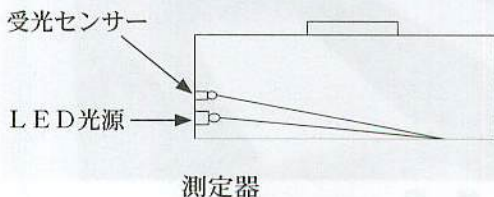


※20℃補正值(英国・道路交通研究所による)

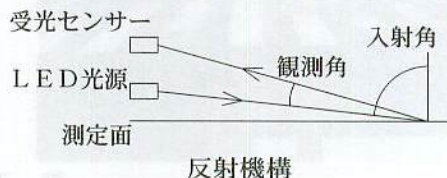
すべり抵抗値は、路面やゴムの温度に影響され、高温では測定値が低く、低温では測定値が高くなる。そこで、測定値への温度による影響を補正し、客観的なデータとするため、上記グラフを用いて20℃に補正した値を最終的なデータとする。

(2) 反射輝度 (ミロラックス7；ポッターズ・バロティーニ製)

反射輝度は、測定器(ミロラックス7)を用いて、乾燥状態で測定する。



測定器



反射機構

LED光源より照射された光が測定面で反射し、受光センサーで感知する。この反射光の強さを反射輝度値として表示する。

角度条件：入射角 86.5°、観測角 1.5°

単位：mcd/m² lx (ミリカンデラ/平方メートル・ルクス)

初期目標値；従来品の80%を確保

(3) 表面状態

塗膜表面を接写し、散布及び含有のガラスビーズ、硬質骨材を主体に、表面の変化を確認する。

測定状況



すべり抵抗測定状況



反射輝度測定状況

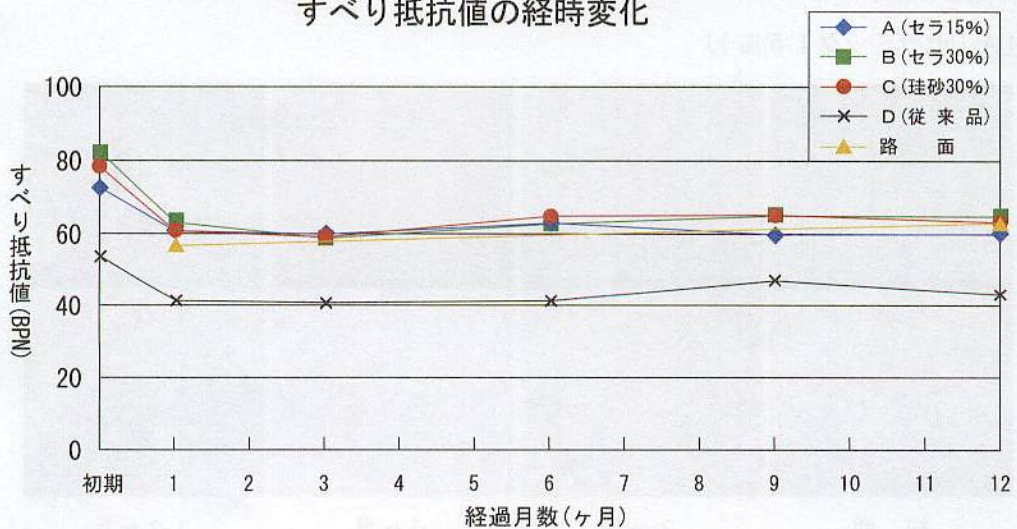
測定結果

○すべり抵抗値(20℃補正值)

単位 BPN

| 種類 | 初期 | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 9ヶ月 | 12ヶ月 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|
| A (セラ15%) | 73.0 | 61.8 | 60.4 | 62.9 | 59.4 | 59.8 |
| B (セラ30%) | 82.2 | 64.0 | 59.1 | 62.9 | 65.0 | 64.5 |
| C (珪砂30%) | 79.2 | 61.5 | 59.4 | 64.6 | 64.9 | 62.9 |
| D (従来品) | 54.4 | 42.2 | 41.2 | 41.6 | 47.4 | 43.2 |
| 路面 | — | 57.5 | — | — | — | 62.6 |

すべり抵抗値の経時変化

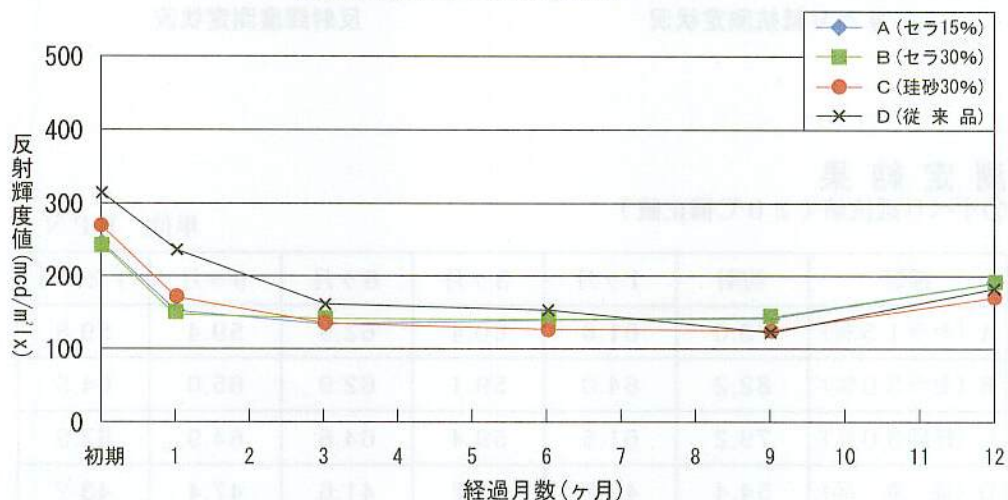


○反射輝度値

単位 mcd/m² lx

| 種類 | 初期 | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 9ヶ月 | 12ヶ月 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| A (セラ15%) | 246.3 | 156.4 | 137.1 | 142.3 | 141.8 | 190.3 |
| B (セラ30%) | 241.0 | 153.4 | 143.3 | 144.2 | 144.8 | 191.9 |
| C (珪砂30%) | 265.3 | 171.1 | 138.2 | 131.7 | 130.6 | 172.7 |
| D (従来品) | 313.8 | 227.3 | 160.6 | 157.8 | 131.7 | 183.7 |

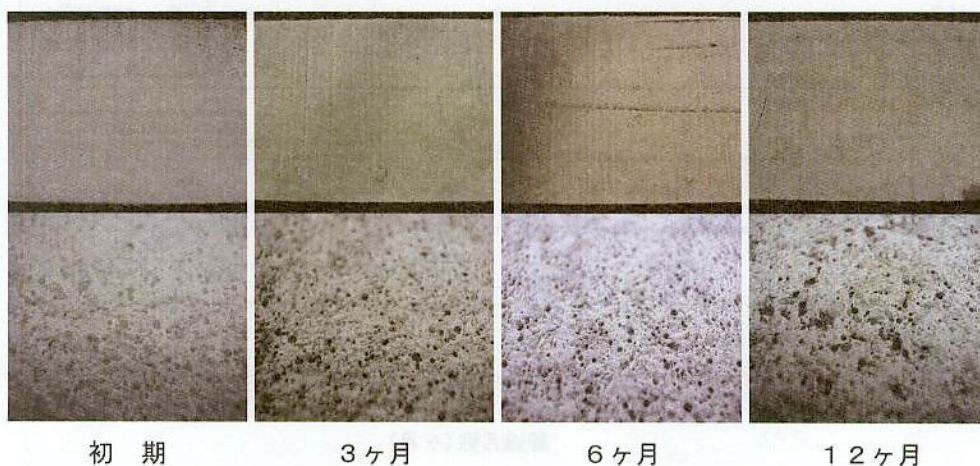
反射輝度値の経時変化



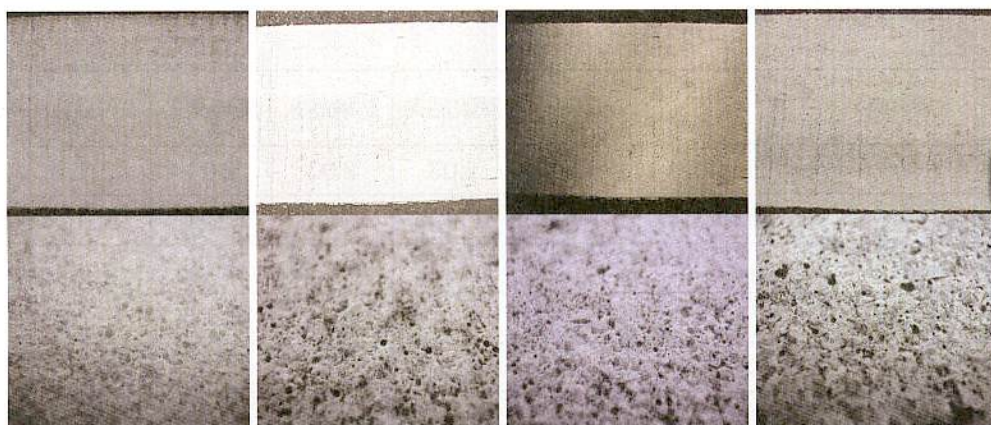
○表面状態の推移

初期では、散布ガラスビーズ及び骨材がよく付着しているが、3ヶ月においては、散布材の多くが離脱している。6ヶ月以降含有ガラスビーズ、骨材の露出が目立ち始め、12ヶ月で含有材が充分露出している状態となっている。A～Cは、3ヶ月以降表面が粗の状態を維持しているが、Dは離脱の穴が目立つものの、全体に滑らかである。

[A (セラミック15%)]



[B (セラミック30%)]



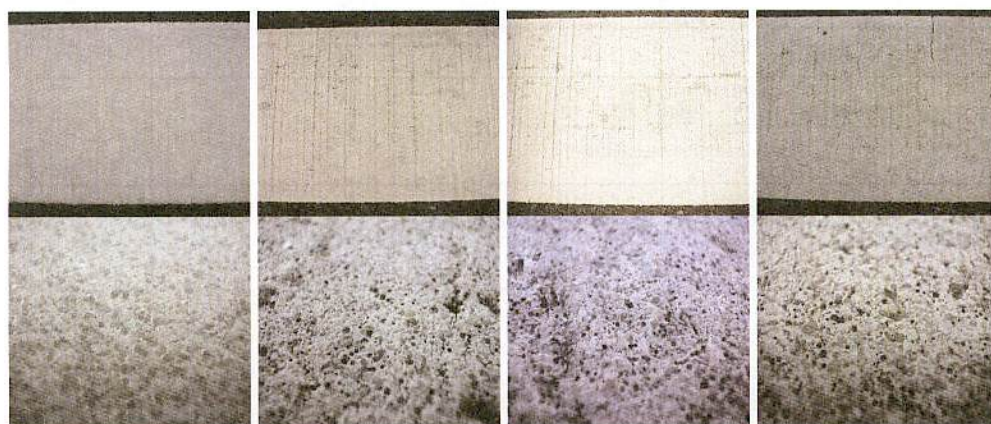
初 期

3ヶ月

6ヶ月

12ヶ月

[C (珪砂30%)]: 12ヶ月で含有骨材の珪砂の茶色が確認できる。



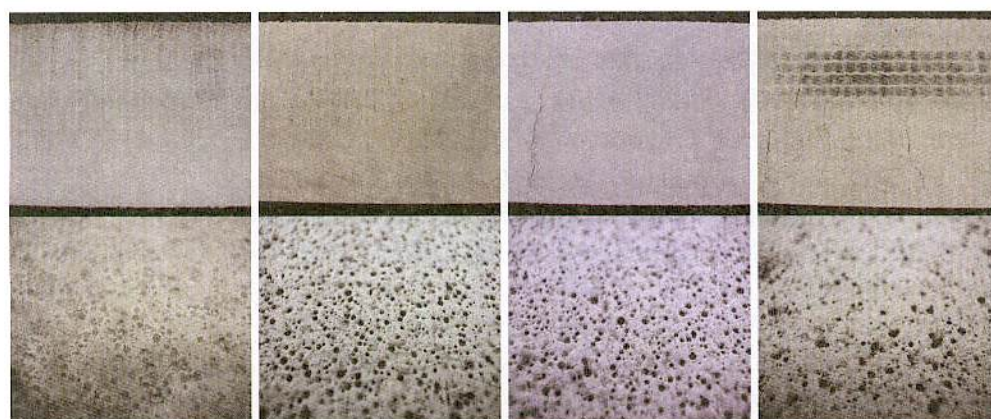
初 期

3ヶ月

6ヶ月

12ヶ月

[D (従来品)]: A~Cに比べ表面が滑らかである。



初 期

3ヶ月

6ヶ月

12ヶ月

○試験施工各材料の品質データ

試験施工時にそれぞれを採取し、品質試験を実施した結果を下記に示す。

| 試験項目 | JIS K 5665 3種1号規格 | 試験品A | 試験品B | 試験品C | 従来品D |
|-----------------------------|---|-------|-------|-------|-------|
| 密度(23℃) g/cm ³ | 2.3以下 | 2.03 | 2.03 | 2.04 | 2.02 |
| 軟化点 ℃ | 80以上 | 111.5 | 112.8 | 112.0 | 110.2 |
| 塗膜の外観 | 塗膜の外観が正常であるものとする。 | 合格 | 合格 | 合格 | 合格 |
| タイヤ付着性 | 3分後に塗膜がタイヤに付着してはならない。 | 合格 | 合格 | 合格 | 合格 |
| 拡散反射率 | 75以上 | 79.6 | 79.3 | 78.1 | 80.4 |
| 黄色度 | 0～0.10 | 0.049 | 0.047 | 0.055 | 0.041 |
| 耐摩耗性 mg/100回転 | 200以下 | 42.8 | 36.2 | 34.8 | 78.7 |
| 圧縮強さ(23℃)kN/cm ² | 0.802以上 | 1.987 | 1.929 | 1.948 | 2.063 |
| 耐アルカリ性 | アルカリに浸しても異常がないものとする | 異常なし | 異常なし | 異常なし | 異常なし |
| ガラスビーズ含有量% | 15 ⁻³ ₀ | 15.5 | 15.6 | 15.6 | 15.5 |
| ガラスビーズの外観形状 % | 球形の粒子であって、だ円・鋭角・不透明・異物・粒子間の融着などの欠点をもつものの総計が20%(個数%)以下とする。 | — | — | — | — |
| 屋外暴露耐候性 | 日本品と比べて、12ヶ月の試験で割れ、はがれ、及び色の変化の程度が大きくないものとする。 | — | — | — | — |

【参考】

試験施工路線の交通量

平日交通量；6,870台／12h 9,618台／24h

休日交通量；5,385台／12h 7,808台／24h

[平成11年度全国道路交通情勢調査資料(国土交通省道路局編集・(社)交通工学研究会発行)]

考 察

○すべり抵抗性

施工初期において試験品は、散布材に混入した硬質骨材の効果が十分に発揮され、A～Cともに70～80BPN前後(20℃補正值；以下の数値も同様)の高いすべり抵抗値を示しており、従来品の値を大きく上回っている。但し、従来品も散布したガラスビーズが適度な凹凸を形成して、55BPN近くの比較的高い値となっている。

施工後、車両の通過に伴い、散布骨材及びガラスビーズは離脱してゆくが、1ヶ月経過で各試料ともすべり抵抗値が大きく低下し、その後は、多少の上下はするものの、測定値は、ほぼ横ばいの状態となる。これは、散布材の埋りが十分でないものが初期のうちにほとんど離脱してしまい、その後は、塗膜の摩耗とともに徐々に離脱してゆくためである。しかし、6ヶ月頃から含有している骨材、ガラスビーズが塗膜表面に現れて、効果を発揮し始め、経時と共に効果の主体となってゆく。

上記の状況により、試験品は60から65前後のすべり抵抗値を維持しており、40台を推移している従来品より、20BPN近いすべり抵抗性の向上が確認された。

また、含有骨材量の違いでは、15%含有より30%含有の方が、塗膜摩耗後のすべり抵抗値において、5BPN程度高くなるとの結果を得た。

以上のことから、硬質骨材の散布及び含有は、すべり抵抗性の向上に有効であり、含有量が多いほうが、長期的に高いすべり抵抗を維持することが確認された。

○反射輝度

夜間の視認性の主要素である反射輝度の結果は、初期において従来品が300mcd/m² lx以上の値を示したこともあり、試験品の初期値は250mcd/m² lx前後と比較的高い値ではあったものの、従来品の80%程度に止まっている。

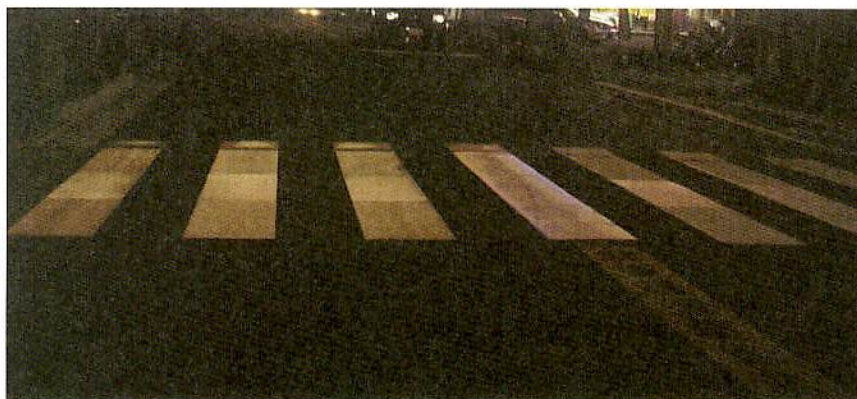
また、散布ガラスビーズの効果を主体とした6ヶ月までは、従来品の輝度値の方が高い状態が続いているが、散布ガラスビーズの離脱が多い3ヶ月を過ぎるあたりからその差は少なくなり、9ヶ月以降は逆に試験品A、Bの方が高い輝度値を示すようになった。

これは、試験品に含有されている硬質骨材が、含有ガラスビーズの離脱を防ぐように作用しているため、含有ガラスビーズの効果を従来品より長期に維持していることによると思われる。(表面接写写真参照)

試験品Cについては、含有硬質骨材である珪砂の色が茶系であることと、セラミックより光を透過しやすいことが反射に影響しているためと考えられる。

以上、初期については、従来品に届かないものの、長期的には従来品と同等か、それ以上の反射輝度が期待される結果となった。

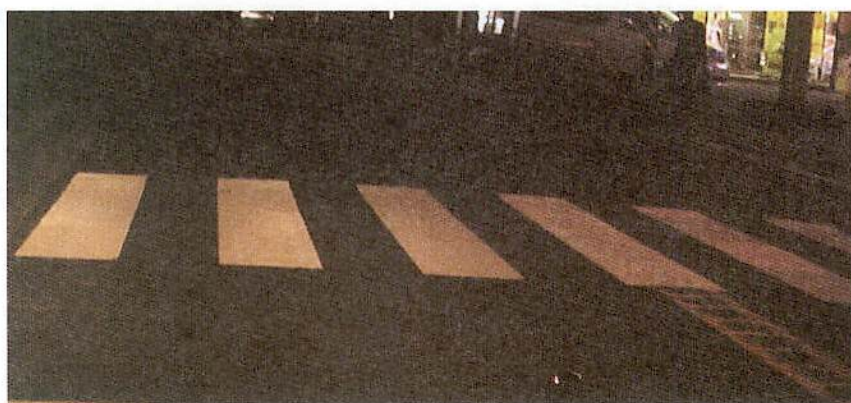
夜間視認状況



初 期



9ヶ月経過



12ヶ月経過



12ヶ月経過視認状況（昼間）

まとめ

以上の試験結果から、硬質骨材を溶融材（路面標示用塗料）に含有させることや、また、散布ガラスビーズに混入させることは、初期から長期に渡りすべり抵抗性を向上させることがわかった。

また、夜間の視認性についても、長期的には従来品と同等の値を維持でき、初期値も 250mcd/ m² lx 前後の比較的高い値であることが確認された。

しかし、初期値については、さらに検証することで散布ガラスビーズと硬質骨材の混合割合をさらにいろいろ検討し、反射輝度とすべり抵抗性のバランスがとれた、より良い配合とすることが望ましいと考える。

また、自動車に対しては、より高いすべり抵抗性が安全性の確保につながるものであるが、歩行者に対しては、40BPN を上回る性能があれば問題ない、との意見があり、あまり高いすべり抵抗は、却って、高齢者のつまずきによる転倒の原因になる、と危惧する声もある。今回の試験施工直後におけるすべり抵抗値 70 ～ 80BPN 程度であれば、つまずくほどの抵抗性はないような感触ではあったが、今後調査、検証を行い確認する予定である。

今回の試験施工は、1ヶ所のみであり、多様な横断歩道の交通状況を代表するものではないので、結果についても、硬質骨材を使用した試験品の傾向を示す一資料として位置付けられるものである。今後、技術委員会による追加試験を実施し、汎用データとして製品の効果を実証することも視野に入れて検討したい。

さらに、汎用的に使用されるまでに普及することを考えた場合、基本となる仕様の標準化およびすべり抵抗値の数値的な基準が求められるかも知れない。製品の特性を示す上でも必要なことではあるが、数値と性能の相関性に対する課題や原材料の多様性などから、短期間に結論を提示できるのではなく、当委員会として継続して検討を進めていくこととしたい。

協会としての試みが交通安全に寄与し、交通事故を減少するよう、今後も積極的に開発、提案を続けるべく努力する所存である。

事務局便り

1. 今年度の総会は、5月11日静岡市で行われ、平成17年度の活動報告及び決算報告、並びに平成18年度の運営計画案及び予算案を原案どおり承認・決定しました。なお、役員は専務理事に種田明政氏を新たに選出したほかは、一部役員変更を除き、石川会長以下昨年どおりであります。(本号別掲のとおり。)

総会終了後は、正会員・賛助会員合同の懇親会を行い、翌日は恒例のゼブラーズ会コンペを開催しました。

2. 会員の異動(3月末)

(1) 正会員

- アトミクス㈱の技術委員は、松田 時雄氏から小川 博巳氏(技術部長)に代わりました。
- ㈱キクテックの業務委員は、竹内 政幸氏から落合 鉄也氏(東京支店長)に代わりました。
- 積水樹脂㈱の業務委員は、小山 智久氏から山野 喜久氏(関東支店所長)に、技術委員は、松下 強氏から辻 祐爾氏(土浦つくば製造一課)に代わりました。
- ㈱トウペの技術委員は、太田 道隆氏から藤田 民人氏(道路塗料課)に代わりました。

(2) 賛助会員

- ㈱エヌ・アイ・シー本社(4月)

新住所 〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目3番6号(北浜山本ビル7階)

電話 06-6232-2123 FAX 06-6232-0115

- 日本ゼオン㈱本社(住所は前号の訂正です。)

住所 〒100-8246 東京都千代田区丸の内1-6-2(新丸の内センタービルディング)

電話 03-3216-2342 FAX 03-3216-0504

3. 委員会活動

業務委員会では平成18年度の「需要調査」を行なっています。例年どおり関係各位のご協力を宜しくお願い致します。また無鉛黄色塗料材が、18年度の警視庁採用に決定しました。

余滴

平成18年度は、輸出の好調や、企業の業績改善などで、もはやデフレから脱出し、景気は上昇しつつある・・・ともいわれていますが、昨年来の原油価格の高騰は、原材料への影響ばかりでなく、日本の経済活動に対する重要な懸念材料で、今後も原油高が続くものと予想されるので何かと大変厳しい状況下にあります。

そのような環境化のなかで、私共は、交通環境への安全・安心のために「いつも、良く見える路面標示(路面標示ワイド化、公視認性化など)」の設置を目指しています。併せて、社会的ニーズに応えるべく環境対応型路面標示用塗料(無鉛・水性)の一層の品質向上を図るなどにより、交通安全に貢献してまいりたい所存です。

路面標示材協会 TEL: 03-3861-3656 FAX: 03-3861-3605